

## ミシシippアカミガメ問題の普及啓発活動

鳥井正男・荒井博子・脇谷清子

654-0049 兵庫県神戸市須磨区若宮町1-3-5 神戸市立須磨海浜水族園ボランティア

The spread enlightenment activities for problem of the red-eared slider turtle

By Masao TORII, Hiroko ARAI and Kiyoko WAKITANI

Kobe Suma Aquarium, 1-3-5, Wakamiya, Suma, Kobe, Hyogo, 654-0049, Japan

近年日本の池や川では、日本のみに生息しているニホンイシガメがあまり見られなくなり、北米原産のミシシippアカミガメ(以下アカミガメ)だらけになっています。その原因の一つは、1950年代後半から[ミドリガメ]の通称で日本に多量に輸入され、ペットとして飼育されていた個体を様々な理由から野外に放されたからで、生態系が乱されたり農業被害が出たり深刻な問題になっています。環境省では、アカミガメ対策プロジェクトを公表し、アカミガメ対策の取り組みを強化しています。そこで日々の須磨海浜水族園内のボランティア活動の中で何かできる事がないかと考え、多くの方々がこの「ミシシippアカミガメ問題」に少しでも関心を持って頂ければとの思いで活動を始めました。平成30年より試行錯誤を繰り返しながら、昨年(令和元年)は、カメの活発な活動時期である6月から9月までの期間限定で、水族園内のふれあい遊園にて、子供たちにもわかりやすい様にアカミガメ問題の実態を紙芝居で知っていただき、アカミガメ・クサガメ・ニホンイシガメの生体や骨格標本にも見て触れて、それぞれのカメの特徴の違いなどを学んでいただきました。活動に参加された方で、アカミガメは外来種である事やミドリガメとアカミガメは別のカメだと思っていた方が意外と多くいました。カメを飼っている方も多くいましたが、ほとんどはアカミガメ・クサガメです。また、以前にアカミガメを飼ったことがある方たちにそのカメは「どうされましたか?」と聞いてみると「いつの間にか逃げていなくなった」とか「逃がしてあげた」という回答も多く、啓発活動をする事でひとりでも多くの方にアカミガメ問題を知っていただき、カメに限らず生き物を最後まで飼いつける事の大切さ、そしてカメを通じて環境問題に少しでも興味を持っていただけるきっかけになればと思います。

本内容は2020年2月24日に開催された第7回淡水ガメ情報交換会のポスター発表にて紹介したものです。活動・発表するにあたり、神戸市立須磨海浜水族園のスタッフの皆様をはじめ、多くの方々の協力があり有意義なものとなりました。今後もこの活動を長く続けていきたいと思っています。



図1. 須磨海浜水族園ふれあい遊園でのアカミガメ問題の普及啓発活動の様子